

在シドニー総領事通信

第 16 回 アリススプリングスとウルル：「コロナ後」に向けて

令和 2 年（2020 年）5 月 29 日

当地ニューサウスウェールズ（NSW）州の学校では、今週から全員通常登校が始まりました。来週からは、パブやレストランでの 50 人までの入店や州内の旅行が認められます。これは大きな進展です。市内には、以前の活気が少しずつ戻ってきました。

「コロナ後」を見据えた経済復活への取組も、いよいよ始動しています。モリソン首相は 5 月 26 日（火）の全国記者クラブ講演で、「雇用創出計画（JobMaker Plan）」を発表しました。将来の税収を財源にした各種の緊急支援措置はあくまで一時的なものに過ぎないとして、今後 3～5 年間のうちにオーストラリア経済を成功に導くための 5 つの基本方針を打ち出しました。そして、技能と労使関係についての具体策を表明しました。

当館も、「コロナ後」に向けて新たな歩みを始めたいと思います。まずは、新型コロナウイルス対処が本格化する直前のご報告から。3 月中旬、オーストラリア大陸の中央部にある北部準州（NT）のアリススプリングスとウルルに初めて出張し、政府関係者や在留邦人とお会いしてきました。

ウルル（通称エアーズロック）は、人気ドラマ・映画の「世界の中心で愛をさけぶ」の舞台となり、日本人観光客の人気が高いスポットです。昨年 10 月の登山禁止の後には訪問者が減りましたが、この地域は原住民の文化が強く残っており、オーストラリアの歴史と文化の重要な側面を知ることができる訪問先です。

NT 政府は厳しい州境規制を実施していますが、6 月 15 日（月）からは州間移動であれば 14 日間の強制隔離を自主隔離にすると昨日発表しました。今後は州境・国境規制の更なる緩和が課題です。この緩和後を見据えて、将来的に多くの日本人がアリススプリングスとウルルを訪問し、理解を深めてもらえるよう、同地の魅力をお伝えしたいと思います。



ライアン・アリススプリングス市長と市庁舎前で
(2020年3月12日)

アリススプリングス（人口約3万人）は、NT内で州都ダーウィン（人口約13万人）に次ぐ拠点都市です。ダーウィンとアデレードのほぼ中間地点にあります。

この地には、1872年に南北を結ぶ電報網の最大の電報局が設けられました。電報局近くの湧き水が、当時北部準州を管轄していた南オーストラリア州の郵政局長の妻アリス・トッドに因んでアリススプリングスと名付けられ、後に町の名前になりました。

1929年に、アデレードとアリススプリングスが鉄道で結ばれました。更に、2004年にはダーウィンまで延伸されて大陸縦断鉄道「ザ・ガン」が開通し、NT観光の新時代を築きました。

アリススプリングスでは、まずライアン市長を表敬しました。10年前に石川県での自治体研修交流事業に参加し、日本のファンになった由です。観光、人的交流やエネルギー開発など、日本との関係強化に向けて意見交換を行いました。



ウェイクフィールド NT 再生可能エネルギー大臣との会談
(2020年3月12日)

アリスプリングスが地元のウェイクフィールド NT 再生可能エネルギー大臣とも会談しました。

現在、日本の農林水産省と NT 政府の協力のもとで、宮崎大学と住友電気工業が、太陽光エネルギーで生成した水素を農業に活用する実証実験をアリスプリングスで行う準備を進めています。大臣からは、この事業を含め、再生可能エネルギーの開発・活用に積極的に取り組む考えであるとの説明があり、心強く感じました。

新型コロナウイルスによる困難を克服するために、今般 NT 政府は経済復活戦略“Operation Rebound”と経済復興委員会の立ち上げを発表しました。ウェイクフィールド大臣は新たに中央オーストラリア復興大臣に任命され、大きな役割を担います。日本も、その成功に向けて可能な限り貢献したいと思えます。



パプンヤ・トゥラの本店
(2020年3月12日)

市内中心部には、原住民（アボリジニ）のアートギャラリーが多数あります。美術商が原住民の文化と生活を大切にしながら作品を市場に出してきた歴史や、絵に描かれている様々な図柄の意味についての話を伺いました。

例えば、代表的なアートギャラリーのパプンヤ・トゥラは、1972年にこの地域で原住民の運営により活動をはじめ、現在は約120人の芸術家を支えています。展示されていた多くのアボリジニ・アートは、長年の歴史を感じさせる風格のあるものでした。



学校での日本語クラス視察
(2020年3月13日)

アリススプリングスでも日本語教育が盛んです。セントフィリップス高校での日本語クラスを参観させていただきました。動画や身振り・手振りを交えて、遊ぶ感覚で実用的な日本語を身に着けさせる教授方法に強い印象を受けました。

生徒が日本語に関心を持つのは、アニメや日本旅行がきっかけということが多いとのことです。しかし、私の学校時代の経験からしても、科目が好きになる大きな理由は先生の魅力と熱意です。オーストラリアの中央部にも、このように日本に興味を持つ子供たちや、熱心に日本語を教える先生がいることを知り、嬉しく思いました。



国立公園管理局長と原住民運営委員からの説明
(2020年3月13日)

次の訪問地ウルルでは、まず先住民文化センターを視察し、国立公園管理局長から説明を受けました。この地域の原住民のコミュニティの中には、20世紀に入って初めて入植者との接点を持ったものもあり、対話と共存のプロセスが今も進行中とのことでした。

ウルルの所有権は、1985年に原住民のアナング族に返還されました。それと同時に99年間の土地貸与契約が締結され、国立公園管理局とアナング族の共同管理下に置かれました。ウルルの運営に際しては、アナング族の主体性が最大限に尊重されています。先住民文化センターの建物は、聖なるものを象徴しているということで、撮影できませんでした。昨年10月からウルル登山が禁止されたのも、ウルルがアナング族にとって聖地とされているからです。



ウルルのホテルにて
(2020年3月14日)

ウルルでは、現地に在住している日本人の観光関係者から、最近の動向についてお話を伺いました。昨年（2019年）は、NTへの外国人観光客は、ウルル人気で日本人が1位でした（2位米国、3位英国、4位ドイツ、5位中国）。登山禁止以降、日本人観光客の数は半減し、本年3月の時点でも回復していないとのことでした。

ただし、その背景を聞いたところ、日本の観光代理店の多くは観光客に対して「ウルルは登山が魅力だ」と説明してパッケージ旅行を売り、最近では「間もなく登山禁止になる」といって更に販売を促進していたため、登山禁止の後は売り方がわからなくなったというのが実情のようでした。観光客の側も、そのような説明を受けて、ウルルでは登山の「達成感」が目的となり、それ以外にはあまり目が向いていなかった人も多かった由です。

そのような話を聞いて、ウルル登山が禁止された今だからこそ、日本人がウルルの新たな魅力を発見できる好機ではないかと思いました。



エアーズロックリゾート内の工芸品店
(2020年3月14日)

ウルルには、保護された原住民の文化が残っており、それを雄大な自然の下で体感できます。

先に述べた原住民文化センターのみならず、エアーズロックリゾートにはアートギャラリーや工芸品店もあります。シドニー市内や空港にもアボリジニ・アートの土産屋はありますが、ウルルの工芸品店の品揃えは、さすが本場ということで質が高く種類も豊富と感じました。



ウルル全景（2020年3月13日）

今回、アリススプリングスとウルルを訪問して、オーストラリアにとっての原住民の文化の重要性を改めて感じました。原住民の文化は、オーストラリアの文化の独自性や、歴史観、世界観の重要な部分を規定しているのではないかと思います。

折しも今週は、「国民和解週間 (National Reconciliation Week)」です。これは、原住民の地位に関する 1967 年の国民投票と原住民の土地の権原に関する 1992 年の高裁判決を記念して、1996 年に原住民との和解推進のために設けられたものです。

州境・国境規制が緩和された暁には、日本から、そしてオーストラリア国内からも、更に多くの日本人がアリススプリングスやウルルを訪問することを期待しています。それにより、オーストラリアの原住民について知見を深め、日豪間の相互理解と交流が一層深化するよう願っています。

モリソン首相の雇用創出計画（JobMaker Plan）講演（英語）

<https://www.pm.gov.au/media/address-national-press-club-260520>

アリススプリングス・ガイド（オーストラリア政府観光局）

<https://www.australia.com/ja-jp/places/alice-springs-and-surrounds/guide-to-alice-springs.html>

宮崎大学の太陽光エネルギー活用水素農業の実証実験

https://www.miyazaki-u.ac.jp/tech/mediadata/pdf/topic_20200129.pdf

パプンヤ・トゥラ（アボリジニ・アートギャラリー）（英語）

<https://papunyatula.com.au/>

NT 政府の経済復活戦略“Operation Rebound”と経済復興委員会の立ち上げ（英語）

<https://business.nt.gov.au/business-reforms-and-initiatives/jobs-first-an-economic-vision-for-the-territory>

ウェイクフィールド大臣の中央オーストラリア復興大臣任命（英語）

<http://newsroom.nt.gov.au/mediaRelease/33324>

ウルル・カタジュタ国立公園パンフレット

<https://parksaustralia.gov.au/uluru/pub/visitor-essentials-jap.pdf>

国民和解週間（英語）

<https://www.reconciliation.org.au/national-reconciliation-week/>

（以上）